

第3期宮城県図書館振興基本計画
に係る令和元（平成31）年度評価

令和2年9月

宮城県図書館

目 次

1	第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について	1
(1)	趣旨	
(2)	第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理	1
(3)	令和元（平成31）年度における点検について	1
(4)	目標指標の達成率の算出について	1
(5)	自己評価の判定区分について	2
(6)	宮城県図書館協議会による外部評価	2
2	第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について	3
3	点検・評価結果について	4
	施策の方向性1	5
	施策の方向性2	7
	施策の方向性3	9
	施策の方向性4	11
	施策の方向性5	13
	施策の方向性6	15
	施策の方向性7	17
	施策の方向性8	19
	施策の方向性9	21
	施策の方向性10	23
	施策の方向性11	25
4	令和元（平成31）年度の点検及び評価の総括	27

1 第3期宮城県図書館振興基本計画の点検及び評価について

(1) 趣旨

図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定により、図書館は、図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととされています。

また、図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）の規定に基づき、運営の状況に関する点検及び評価を行うよう努めなければならないこととされています。

そのため、上記の法律等に基づき、平成30年度以降における宮城県図書館（以下「当館」という。）が実施する事業に係る点検及び評価を実施するものとします。

(2) 第3期宮城県図書館振興基本計画における進行管理

第3期宮城県図書館振興基本計画を着実に推進するために、施策に掲げた取組の実施状況を把握し、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルによる進行管理を行います。また、運営の状況について当館による自己評価及び宮城県図書館協議会による外部評価を行い、その結果に基づいて運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めます。

(3) 令和元（平成31）年度における点検について

点検については、事業毎の点検を行い、施策の方向性毎に進捗状況等を明らかにするとともに、課題の分析や今後の対応の方向性を示すこととしました。

なお、今回の報告については、3月31日現在の実績等を踏まえ作成しています。

(4) 目標指標の達成率の算出について

● それぞれ施策毎に目標指標等を次のストック型とフロー型に分類し、対応する計算式により達成率を算出した。

- ・ ストック型：事業活動に伴う成果を累積して把握する指標
$$\frac{\text{実績値} - \text{初期値}}{\text{目標値} - \text{初期値}}$$
- ・ フロー型：事業活動に伴う成果を単年度ごとに把握する指標
$$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}}$$

※ 目標値を下回ることを目標とする指標の場合などはストック型を準用して算出

(5) 自己評価の判定区分について

施策の方向性を構成する事業の必要性，有効性，効率性を考慮し，目標指標等の達成状況，社会経済情勢，事業の実績及び成果等から見て，次のとおり判断しました。

- ・ 順 調：成果が十分にあり，進捗状況が順調であると判断されるもの。
- ・ 概ね順調：成果がある程度あり，進捗状況が概ね順調であると判断されるもの。
- ・ やや遅れている：成果があまりなく，進捗状況がやや遅れていると判断されるもの。
- ・ 遅れている：成果がなく，進捗状況が遅れていると判断されるもの。

(6) 宮城県図書館協議会による外部評価

今回の宮城県図書館協議会において，当館が仮に作成した自己評価を報告し，御意見をいただくこととします。さらに，翌年度最初に開催される宮城県図書館協議会において，当館が作成した最終自己評価を報告した上で評価を決定します。

2 第3期宮城県図書館振興基本計画の構成について

基本方針

県内全域の図書館間ネットワークのより一層の連携・強化に努め、図書館サービスの向上を図ります。また、県民の知る権利を保障し、県民誰もが生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる環境づくりを目指します。

目標

- 1** 宮城県図書館を中核とした市町村図書館等とのネットワーク体制の充実を図るとともに、全県的な図書館サービスの質的向上に努めます。
- 2** 県民のニーズや社会の要請に応えるための充実した図書館サービスを提供します。
- 3** 図書館がその機能を十分に発揮するための資料・施設・職員の充実を図ります。
- 4** ふるさと宮城に関する資料の収集・保存に努めるとともに、東日本大震災の記録を永く後世に伝えるための取組を行います。

施策の方向性

【全47事業】

- 1** 市町村図書館等との連携強化及び支援の充実を図ります。【6事業】
- 2** 県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。【2事業】
- 3** 学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。【5事業】
- 4** 子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。【6事業】
- 5** 多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。【10事業】
- 6** ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。【3事業】
- 7** 公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。【4事業】
- 8** 安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。【2事業】
- 9** 組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。【3事業】
- 10** 宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。【3事業】
- 11** 東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。【3事業】

3 点検・評価結果について

施策の方向性		自己評価
1	市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。	概ね順調
2	県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り，効果的な研修を実施します。	概ね順調
3	学校図書館との連携を推進するとともに，支援の充実を図ります。	やや遅れている
4	子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。	概ね順調
5	多様な資料・情報の提供に努めるとともに，県民の課題解決を支援する図書館を目指します。	概ね順調
6	ボランティアの活躍の場を創り，その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに，ボランティア活動を支援します。	概ね順調
7	公平かつ長期的な視点に立ち，県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに，適正に整理，保存し，有効活用を図ります。	概ね順調
8	安全安心な施設の維持に努め，県民が利用しやすい環境整備を推進します。	概ね順調
9	組織運営の強化に取り組むとともに，創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。	概ね順調
10	宮城の郷土資料を後世に伝えるため，収集・保存や修復を行うとともに，利活用の促進を図ります。	順調
11	東日本大震災の記録を収集し，永く後世に引き継ぐための取組を行います。	順調

第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

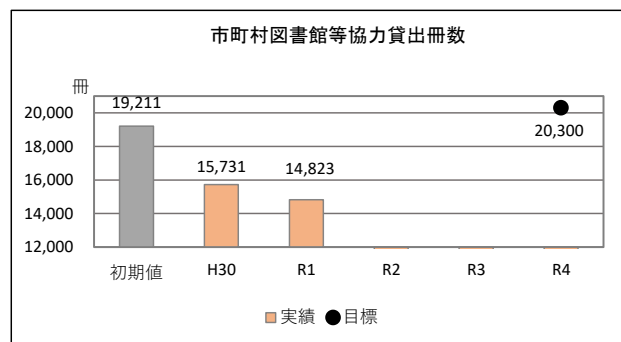
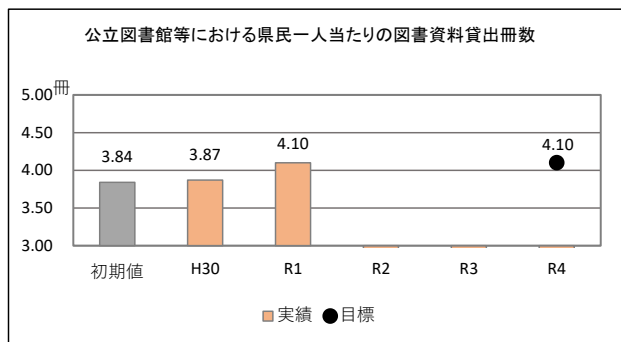
評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	1 市町村図書館等との連携強化及び支援充実を図ります。
--------	-----------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を利活用し、当館から市町村図書館等への協力貸出、当館・市町村図書館等間の相互貸借及び情報交換等を行います。 ・ 市町村図書館等を訪問し、各館の現状や課題を把握し、情報の提供や収集及び運営相談、助言等を行います。 ・ 市町村図書館等の住民サービスと利用促進に繋げるため、当館から直接館外貸出を受けた資料を、市町村図書館等を通じて返却できるようにし、当館から遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図ります。 ・ 被災した図書館等の地域資料を再整備するため、「みやぎデポジットライブラリー」について継続して取り組み、必要な地域資料の収集と再配布を行います。
------	--

目標指標	※「公立図書館等における県民一人あたりの図書資料貸出冊数」の実績値については、「宮城県内公共図書館・公民館図書室等現状調査」の数値を用いているため、調査時期の関係上、前年度（H30年度）実績値を計上している。			
------	--	--	--	--

	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率	
公立図書館等における県民一人当たりの図書資料貸出冊数	3.84冊	4.10冊	4.10冊	100.0%	【フロー型】
市町村図書館等協力貸出冊数	19,211冊	20,300冊	14,823冊	73.0%	【フロー型】



構成事業の実績	実 績
図書館ネットワークシステム運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共図書館21市町31館、公民館図書室等読書施設14市町村15室(全市町村)が加入し、本の貸出依頼や諸連絡、情報交換等に活用した。 ・ 旧図書館情報ネットワークシステムについて、保守業者との定例打合せを年5回実施し、図書館システムの安定化を図った。 ・ 図書館情報ネットワークの更新を行い、新システムへと移行した。
協力業務運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内市町村図書館等への協力貸出を14,823冊、県外図書館等への相互貸借を622冊行い、当館資料の活用を図った。
公立図書館等連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年3回(4・6・11月)の会議を開催し、公立図書館等間における連携協力や情報交換を図った。
巡回相談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期4～6月、後期10～11月の年2回、市町村図書館等35館を巡回し、情報提供や運営相談を実施した。
市町村図書館等返却サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔地等に在住する県民の利便性の向上を図るため、宮城県図書館の窓口で借りた資料を市町村図書館等で返却することができる制度を実施し、1,441件、5,229冊・点の実績があった。

事業名	
被災した市町村図書館等の復興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第21回図書館総合展(11/12～11/14 於:パシフィコ横浜)において、被災地図書館の復興状況を紹介した。 ・ 台風19号で被災した市町村図書館等へ職員を派遣し支援活動を行った。(2館) ・ 学校や行政機関で不要になった地域資料を当館が収集し、当該資料を東日本大震災により被災した県内の市町村図書館等に随時提供する「みやぎデジタルライブラリー」の目録を整理の上MY-NETに掲載し、地域資料の利活用を図った。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館情報ネットワークシステムを新システムへと更新したことにより、セキュリティの向上を図るとともに、安心して利用できるネットワーク体制を構築することができた。 ・ 市町村図書館等への協力貸出の実績については前年度並みであったが、これは市町村図書館等の蔵書が充足してきていることが一因であると考えられる。 ・ 震災で被災した市町村図書館等の復興支援として、「図書館総合展」において、各図書館の復興状況の紹介をする活動を行った。 ・ 台風19号で被災した図書館について、図書館情報ネットワークなどを活用した情報収集を行い、早急に県内に情報提供した他、人的な支援活動(角田市図書館・丸森町金山図書館)を行った。 ・ 以上のことから、協力貸出の達成度状況は低いものの、他の構成事業は計画どおり実施できている状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災に限らず台風被害に代表されるように、何らかの災害によって被災し支援が必要な図書館が出ることが予想されることから、各種の情報収集・提供、手段の確保及び支援の手立てが求められる。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館が災害によって被災し、支援の必要性が生じる場合を想定して、宮城県図書館として市町村図書館等を巻き込んだ初動から円滑に対応できる体制づくりに努める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 ・ 図書館総合展での活動状況の発信は、改めて連携の状況を把握することにつながるとともに多くのフィードバックを得られる場を持てたという点において良い取り組みであった。 ・ 台風19号で被災した館に対して迅速に職員を派遣して復旧支援を行ったことは大変意義ある連携であったといえる。 ・ 目標指数としている「市町村図書館等協力貸出冊数」が増加していない原因に対する分析が、各館での蔵書充実のみでは不足しているようにも思える。県図書館として改善すべき点が無いかの振り返りは必要ではないか。

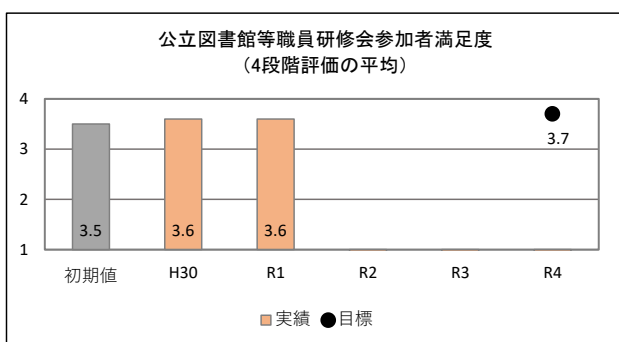
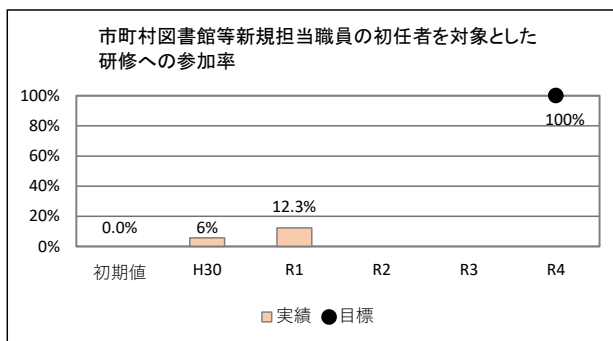
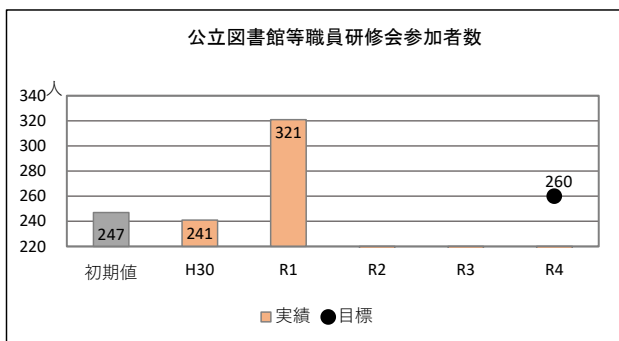
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	2 県内図書館等職員の資質・能力の向上を図り、効果的な研修を実施します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員の業務担当者及び公立小・中学校、県立学校図書館担当者を対象に、図書館担当職員としての基礎的な知識の習得のための機会を設け、業務推進の一助となるよう研修会を実施します。 市町村図書館等が実施する研修会へ当館職員を派遣し、市町村における図書館業務の専門的知識習得と技術力向上を支援します。 図書館界の新たな動向や新しいサービスについて、当館職員が学ぶ機会を確保し、市町村図書館等への支援に生かします。
------	---

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率
公立図書館等職員研修会参加者数	247人	260人	321人	123.5%	【フロー型】
市町村図書館等新規担当職員の初任者を対象とした研修への参加率	0%	100%	12.3%	12.3%	【ストック型】
公立図書館等職員研修会参加者満足度（4段階評価の平均）	3.5	3.7	3.6	97.3%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
公共図書館等職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を年4回(5・7・9・11月)実施し、知識と技能の習得を図った。 受講者数については、延べ321人の参加があった。 参加者アンケートでは平均3.6の高い評価を得た。
出前講座	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、7市町の研修会等へ当館職員を9回派遣した。

自己評価

概ね順調

理由

- ・ 公共図書館等職員研修会全体の受講者数は順調に伸びており、引き続き参加を促進するためアンケート等でニーズを把握し、魅力ある研修会としていきたい。
- ・ 出前講座については、年2回の巡回相談にて積極的に広報を行ったことなどから、研修会等への派遣回数が前年度実績(4市町6回)より増加した。
- ・ 以上のことから、目標指標の一部は達成度状況は低いものがあるものの、計画どおり各事業を実施できた状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題

- ・ 公共図書館等職員研修のうち、初任者を対象とした研修への新規担当者の参加率が低くなっているが、これは市町村図書館等の職員体制によるところが大きいものと考えている。
- ・ 公共図書館等職員研修会について、効果的な魅力ある研修となるよう広く講師を招聘し開催したいと考えているが、予算の制約があり難しいところがある。

対応方針

- ・ 市町村図書館等支援のため、必要な経費の確保に努めた上で、充実した研修会となるよう更なる工夫を重ねる。
- ・ 公共図書館等研修会のうち初任者対象の研修については、参加対象を「図書館勤務1年目」から「図書館勤務1～3年目」と拡大することにより、初年度で受講できなくても次年度以降も受講できるよう要件を工夫する。

協議会委員意見

- ・ 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。
- ・ 参加者の満足度を高く維持出来ていることは評価できる。新規担当者の参加率改善に関しては、ウェブ開催などのリモートでの対応を考えいべきタイミングかと思われる。
- ・ 県内図書館職員向けにさまざまな研修を実施しており、市町村図書館の職員育成に資するものとなっている。

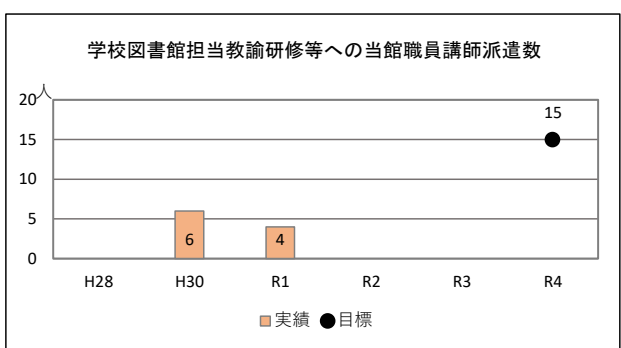
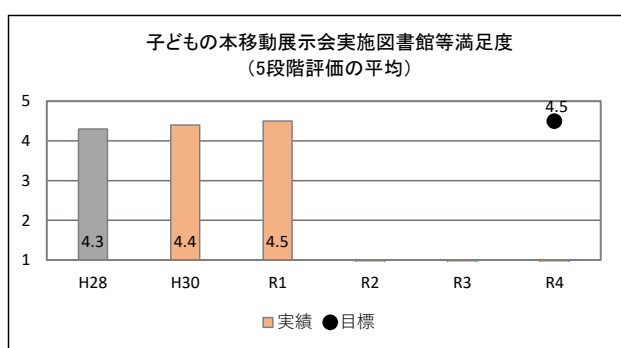
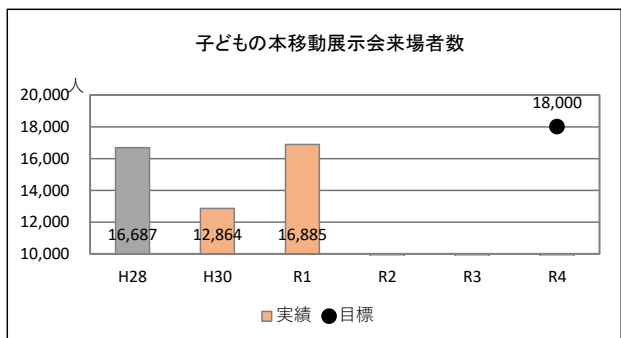
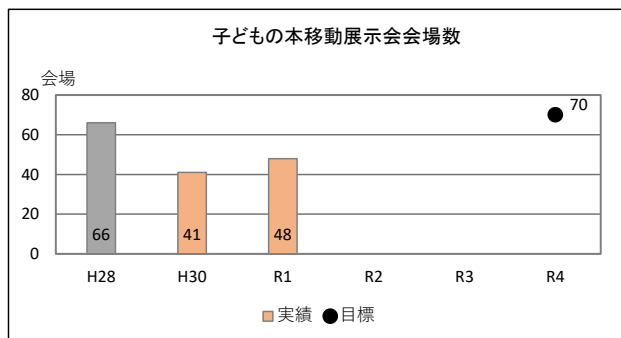
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	3 学校図書館との連携を推進するとともに、支援の充実を図ります。
--------	----------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの本展示会で展示した児童書を貸し出す移動展示会を実施し、児童書のさらなる活用を図ります。 ・ 幅広い内容の本をテーマ別・対象学年別に組んだセット資料を、市町村図書館等を通して小・中学校に貸し出します。 ・ 歴史や文化に親しむ大きな契機とするため、当館が所蔵している貴重資料の複製を県内の高等学校・市町村図書館等に貸し出します。 ・ 高等学校及び支援学校等図書館との連携・協力を推進するため、ニーズを調査し、それに応じた支援事業の実施に向けて検討します。 ・ 学校図書館担当教諭研修等へ当館職員を講師として派遣することにより、学校司書を対象とした研修との相乗効果を図りながら、学校図書館運営を側面から支援します。
------	--

目標指標	初期値 (平成28年度)	目標値 (平成34年度)	実績値 (令和元年度)	達成率
子どもの本移動展示会会場数	66会場	70会場	48会場	68.6% 【フロー型】
子どもの本移動展示会来場者数	16,687人	18,000人	16,885人	93.8% 【フロー型】
子どもの本移動展示会実施図書館等満足度 (5段階評価の平均)	4.3	4.5	4.5	100.0% 【フロー型】
学校図書館担当教諭研修等への当館職員講師派遣数	—	15人	4人	26.7% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
子どもの本移動展示会	・ 子どもの本展示会で展示した2018年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室16館へ22セット、小・中学校、特別支援学校32校へ36セットを貸し出した。

事業名	
学サボセットの貸出	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを10市町11館へ延べ40セットを貸し出した。
複製資料貸出事業	<ul style="list-style-type: none"> 県内の高等学校や市町村図書館延べ16箇所に、坤輿万国全図などの複製資料35点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。
学校図書館運営サポート事業	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館担当教諭研修会等へ当館職員4名を講師として派遣した。 高等学校との連携・協力を推進するため、学校司書との意見交換を行った。
公共図書館等職員研修（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を年4回（5・7・9・11月）実施し、知識と技能の習得を図った。 受講者数については、延べ321人の参加があった。 参加者アンケートでは平均3.6の高い評価を得た。

自己評価	やや遅れている
------	---------

理由
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの本移動展示会については、申し込みがあったすべての施設で実施することができた。実施会場数及び来場者数は前年度より増加し、実施した施設からは目標値に届く満足度を得た。 学校図書館運営サポート事業については、研修会への講師の派遣や公共図書館等研修会の実施、複製資料貸出の実施など、現状でできることから事業を行っている。 再掲事業については、7ページ参照。 それぞれの事業については計画どおり実施できたと考えているが、「学校運営サポート事業」に係る県立学校等支援のための事業については実施できる計画まで進んでいないことから、本施策の方向性の評価は「概ね順調」ではなく、「やや遅れている」としたものである。

課題
<ul style="list-style-type: none"> 県立学校への資料貸出などの支援については、学校現場の実情と支援要望を確認することに多く時間を必要とした。今後も学校側の要望にできるだけ添った支援内容の検討が必要である。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館運営サポート事業については、調査や学校現場との意見交換を随時実施しながら、早急にモデル校等の設定も考えながら効果のある支援策を立案していく。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「やや遅れている」とした自己評価は妥当であると判断される。 学校図書館への支援は、引き続き強化していくべき重要な事項の一つであろう。対応方針にあるようなモデル校をとっかかりとして、実際に現場と活動を共にしながらあるべき形を模索するという進め方を検討してはどうか。 子どもの本移動展示会の満足度が高いなど好評であることが窺えるので、今後もニーズに応じた対応をお願いしたい。 学校運営サポート事業については、どのように支援が受けられるのか分からない学校もあるかもしれないので、モデル校の設定は効果的と思われる。

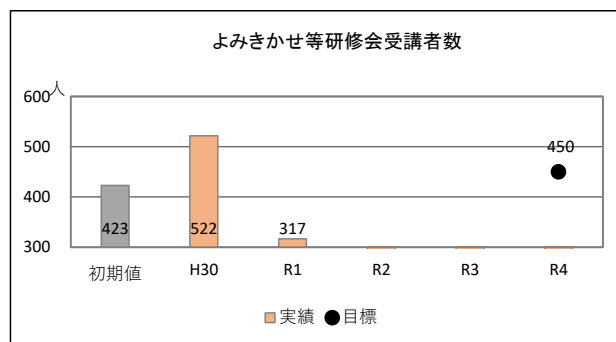
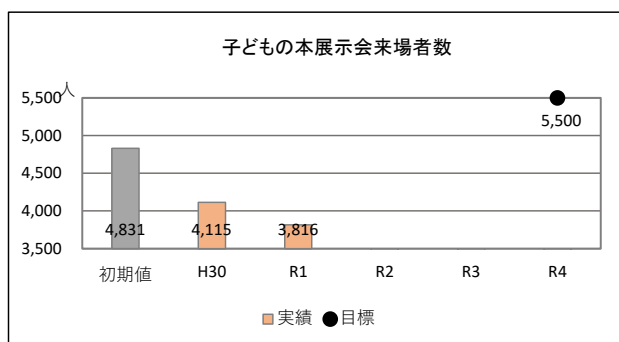
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	4 子どもの読書活動を推進するための環境の整備促進を図ります。
--------	---------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境や読書活動促進のため、児童書や児童文学賞作品、「小中学生のための読書案内『本のいずみ』」に紹介した資料を展示する「子どもの本展示会」を開催します。 子どもの読書活動を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目的として、おはなし会を行う基本的知識と技能を習得するための研修を実施します。 図書館を身近なものに感じてもらうための夏休み親子ツアーを実施します。 児童資料研究・相談室については、時代のすう勢を再確認しながら、利用のあり方等を検討します。
------	--

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率	
子どもの本展示会来場者数	延べ4,831人	延べ5,500人	延べ3,816人	69.4%	【フロー型】
よみきかせ等研修会受講者数	延べ423人	延べ450人	延べ317人	70.4%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
子どもの本展示会	<ul style="list-style-type: none"> 次世代を担う子どもたちの読書環境整備や読書活動促進のため、前年出版の児童書約2,000冊を展示した。また、テーマ展示として、2019年の児童文学賞作品及び絵本作家とよたかずひこ氏の作品約100冊を展示した。期間中、延べ3,816人の来場者を得た。 展示期間中、絵本作家のとよたかずひこ氏による講演会を実施し、138名の参加があった。
よみきかせ等研修会	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間9回の研修会を開催し、延べ317人の参加者を得た。
夏休みお仕事体験ツアー	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに宮城県図書館への理解を深めてもらうため、図書館業務体験と館内案内を実施した。8月2日、3日の2日間開催し、28組63人の参加があった。
学サポセットの貸出（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等と小・中学校との協力・連携への側面的支援のため、テーマ別、学年別の児童書セットを10市町11館へ延べ40セットを貸し出した。
複製資料貸出事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 県内の高等学校や市町村図書館延べ16箇所、坤輿万国全図などの複製資料35点を貸し出し、著名な資料や郷土の文化の発信に努めた。

事業名	実績
子どもの本移動展示会（再掲）	・子どもの本展示会で展示した2018年の新刊児童書200冊を1セットとし、県内市町村図書館や公民館図書室16館へ22セット、小・中学校、特別支援学校32校へ36セットを貸し出した。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの本展示会については、ここ数年、期間中の来場者数が4,000人前後で推移しているが、今年度については、期間中の大型連休の影響もあり、前年度の4,115人を下回る3,816人であった。 ・よみきかせ等研修については、前年度まで1回90分で13回実施していたが、内容の充実度を高めるため、講座時間を120分として9回の開催とした。受講申し込みは毎回定員を上回り、県民に広く認知され始めたことが感じ取れ、受講後のアンケートでも満足度が高い。 ・「夏休み親子ツアー」を「夏休みお仕事体験ツアー」として実施したが、定員を大幅に超える希望があり、大変好評であった。 ・再掲事業については、9～10ページ参照 ・以上のことから、目標指標の達成度状況に低いものはあるものの、全体的に見て計画通り事業を実施した状況であることを勘案すると、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・児童資料研究・相談室については、これまでにない部署あて広報をするなど工夫し、さらに利用しやすい環境整備を行ったが、利用件数がほとんどない状況である。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・児童資料研究・相談室の利用のあり方については、根本的な措置を要する時期に来ていることから、引き続き課題・理念の整理を行い検討を継続する。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。 ・児童資料研究・相談室のあり方は重要な懸案であるが、リソースのことも考慮すれば思い切った舵取りも必要かと思われる。例えば保護者を交えた意見交換の場を設けるなどした、従来の形にこだわらないアイデアを取り入れることも検討してはどうか。

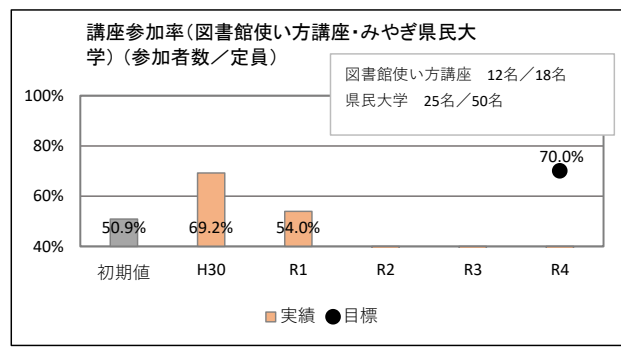
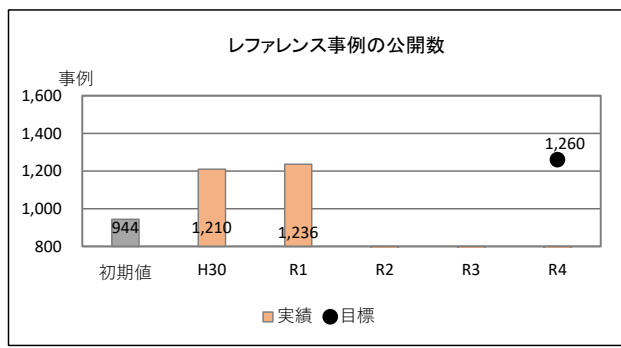
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	5 多様な資料・情報の提供に努めるとともに、県民の課題解決を支援する図書館を目指します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ レファレンス事例の公開や、レファレンス協同データベースを活用し、付加価値の高い情報発信を行います。 ・ パスファインダーを作成して配布するとともに、ホームページに公開します。 ・ 資料検索端末やデータベース等の講習を実施し、利用者が自身で課題解決できるようサポートします。 ・ 県民の生涯学習支援の一環として、より多くの学習機会を提供するために、当館所蔵資料を活用した「みやぎ県民大学」等を実施します。 ・ 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サビエ」を活用して、点字やデジータ等の情報を提供し、サービスの充実を図ります。 ・ 宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)を更新し、よりわかりやすく、利用しやすいホームページの作成を目指し、利便性の向上を図ります。 ・ 県民の課題解決支援のための各種講座やイベント等について、ホームページやSNS、新聞等を活用し、常に最新の情報を提供します。
------	---

目標指標					
	初期値(平成28年度)	目標値(平成34年度)	実績値(令和元年度)	達成率	
レファレンス事例の公開累積数 (初期値との差)	944事例 (—)	1,260事例 (+316事例)	1,236事例 (+292事例)	92.4%	【ストック型】
講座参加率(図書館使い方講座・みやぎ県民大学) (参加者数/定員)	50.9%	70.0%	54.0%	77.1%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
レファレンス事例の公開	・ 26,622件の調査相談を実施した。レファレンス共同データベースに、公開可能なものをレファレンス事例として27件登録した。公開事例は累計で1,236件となった。
パスファインダーの作成・公開	・ 調べ方案内(パスファインダー)について、新たに6件の作成と1件の改訂を行い、配布するとともにホームページにも公開した。
図書館使い方講座	・ データベース講座として、①使ってみよう！ジャパンナレッジ(辞書・事典の検索データベース) ②使ってみよう！新聞記事データベース ③使ってみよう！国立国会図書館デジタルコレクション ④使ってみよう！叡智の柱WEB ⑤D1-law.com(法情報総合データベース)の5講座各2回の合計10回(うち1回は台風のため中止)、⑥OPAC講座を5回実施した。各2名の定員に対して合計12名の参加があった。
図書館見学ツアー	・ 毎月第3土曜日開催し、延べ48名の参加があった。 ・ 毎回参加者にアンケートを依頼しているが、それによると「普段見ることのできない場所を見ることができて良かった。」などという声もあり、好評を得た。

事業名	実績
みやぎ県民大学	<ul style="list-style-type: none"> 8月～10月に講座を4回開催し、定員50名に対し25名(延べ71名)の参加があった。 受講者アンケートによると、理解度、満足度ともに高い評価を得た。
ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> 11月に開催し、パトラー(発表者)6名、オーディエンス(参加者)20名の参加があり、新しい本との出会いを通じて県民の図書館への関心を高め、利用促進を図った。
サピエ図書館サービス	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者や目で字を読むことが困難な方々に、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」を活用して点字やDAISY資料等の情報を提供している。今年度は利用0件だった。 現在はタイトル登録に向けてDAISY資料の製作を進めている。
「ことばのうみ」発行	<ul style="list-style-type: none"> 7月(63号)は、巻頭エッセイは作家相戸結衣氏、特集は子どもの本展示会とした。 10月(64号)は、巻頭エッセイは童話作家わたりむつこ氏、特集は図書館ボランティアとした。 1月(65号)は、巻頭エッセイは童話作家筒井頼子氏、特集は図書館情報ネットワーク及びNDC10版の解説とした。 各8,000部発行し、県内外の利用者への当館の活動の広報を行った。
情報エントランスみやぎ	<ul style="list-style-type: none"> 1階エントランスを活用し、宮城県や他の外部機関と連携してパネル展示を行い、県民にさまざまな情報を提供した。9機関10回の利用実績があった。
宮城県図書館情報ネットワークシステムの更新	<ul style="list-style-type: none"> 図書館情報ネットワークシステムの更新を行い、利便性向上を図るための機能の追加や改善を行い、よりよい図書館サービスの提供ができるシステムを構築した。

自己評価	概ね順調
理由 <ul style="list-style-type: none"> レファレンス事例の公開数は、順調に伸びている。 県民参加型事業である「みやぎ県民大学」については、講座テーマ設定等の理由があり講座参加数は定員に達しなかった。 『ことばのうみ』については、巻頭エッセイは宮城県出身者で現在も各分野で活躍されている方から寄稿をいただくことができた。また、これまで発行したものを活用した展示を行うことができた。 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> サピエ図書館サービスの利用が無いことについては、地理的に来館しづらい状況であることと、サービスの内容が利用者に十分に周知されていないという現状があるものと考えている。 みやぎ県民大学については、その年の講座内容により参加率の増減があるので、興味を持たれるようなテーマ設定と講師の確保に努め、より魅力ある事業となるよう工夫する必要がある。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> サピエ図書館サービスについては、視覚障害者情報センター等関係機関と連携を深めるとともに、広報媒体による周知にも努め利用者の拡大を図る。 みやぎ県民大学をはじめイベントや行事の開催については、興味あるテーマ設定に努め、より多くの県民に認知してもらおうと努める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

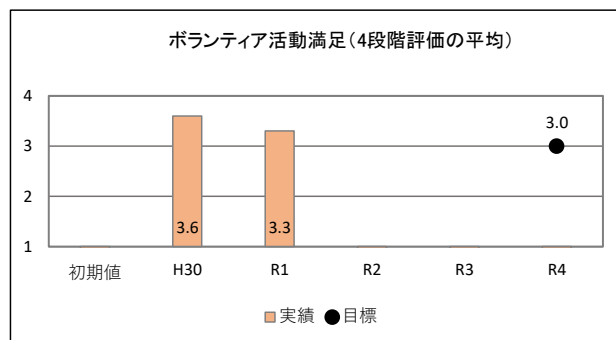
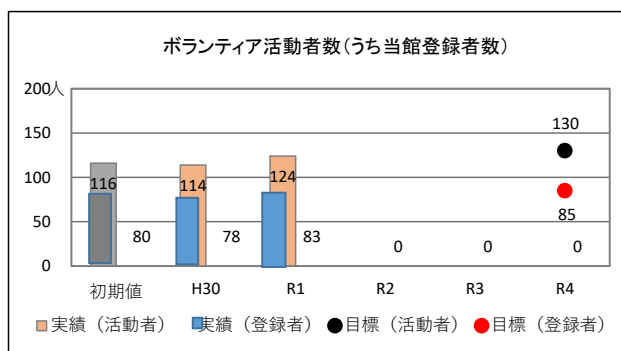
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	6 ボランティアの活躍の場を創り、その力を生かしたさまざまなサービスの提供を実施するとともに、ボランティア活動を支援します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア登録により、書架整理・展示室等案内・音訳・蔵書点検等の活動分野において、職員やボランティア同士のコミュニケーションを図りながら活動を支援します。 ・ ボランティア活動に必要な基礎的知識や技能を習得するための研修体制を充実させます。 ・ 当館ボランティア登録者以外についても、充実したボランティア活動ができるよう、生涯学習の一環として活動の場を提供します。
------	---

目標指標																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期値（平成28年度）</th> <th>目標値（平成34年度）</th> <th>実績値（令和元年度）</th> <th>達成率</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティア活動者数（うち当館登録者数）</td> <td>116人〔80人〕</td> <td>130人〔85人〕</td> <td>124人〔83人〕</td> <td>95.4%〔97.6%〕</td> <td>【フロー型】</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動満足（4段階評価の平均）</td> <td>—</td> <td>3.0</td> <td>3.3</td> <td>110.0%</td> <td>【フロー型】</td> </tr> </tbody> </table>		初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率		ボランティア活動者数（うち当館登録者数）	116人〔80人〕	130人〔85人〕	124人〔83人〕	95.4%〔97.6%〕	【フロー型】	ボランティア活動満足（4段階評価の平均）	—	3.0	3.3	110.0%	【フロー型】
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率															
ボランティア活動者数（うち当館登録者数）	116人〔80人〕	130人〔85人〕	124人〔83人〕	95.4%〔97.6%〕	【フロー型】														
ボランティア活動満足（4段階評価の平均）	—	3.0	3.3	110.0%	【フロー型】														



構成事業の実績	
事業名	実績
ボランティア活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書架整理・展示室等案内・音訳・協力貸出搬送・蔵書点検等の各分野において、週1回2時間程度のボランティア活動の場を提供するとともに、活動のサポートを行った。 ・ よみきかせ活動については、今年度は7団体41人の登録があり、子ども図書室にて活動した。
ボランティア養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修会として、「宮城県図書館の概要」「緊急時の対応」「交流会」「講演会」などを年2回実施したほか、活動分野毎にサービス内容や技能習得のための養成講座や専門講座を44回実施し、延べ193人の参加があった。
よみきかせ等研修会（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの読書環境を推進する担い手の育成とさらなる資質向上を目指し、おはなし会を行う際に必要なよみきかせ等の基礎知識と技能の修得を図るため、年間9回の研修会を開催し、延べ317人の参加者を得た。

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動者数は順調に伸びており、複数年にわたり活動を継続しているボランティアも多いことから、やり甲斐をもって活動しているものと考えられる。 再掲事業については、11ページ参照 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は現時点において「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 当館で活動できる場は限られているため、さらに活動の場を広げてほしいという声が引き続き寄せられている。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 現状では新規分野の開拓は難しいが、ボランティアがやり甲斐をもって活動できるよう引き続き検討する。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

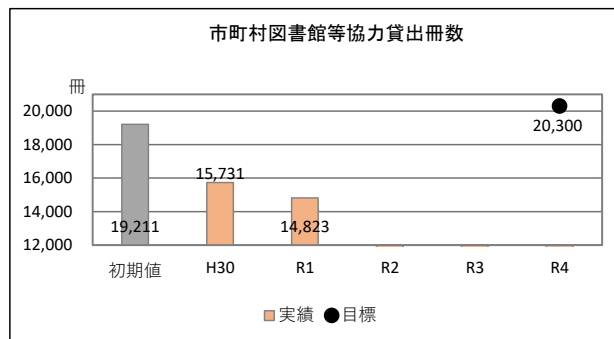
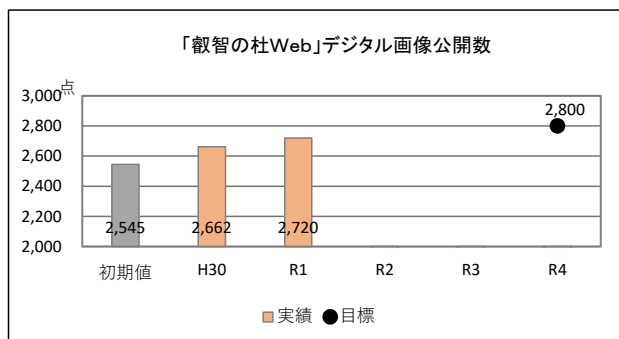
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	7 公平かつ長期的な視点に立ち、県民が必要とする資料を幅広く収集するとともに、適正に整理、保存し、有効活用を図ります。
--------	---

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料について県民のニーズを把握し、公平性、有効性を考慮し、特定の分野に偏ることなく、可能な限り幅広く収集するとともに、資料の更新・整備を行います。 ・ 関係機関等と連携しながら、当館所蔵資料を活用した展示等を行い、広く県民に公開します。 ・ 資料が利用者に活用される情報資源となるよう、文献リスト等の作成により付加価値の高い情報発信に取り組みます。 ・ 地域の課題等に対応した特集コーナーや展示により、資料の有効活用に取り組みます。 ・ 16ミリ映画フィルム等の点検、整備、適切な保存に努め、その利活用を図ります。
------	---

目標指標				
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)	2,545点 (-)	2,800点 (+255点)	2,720点 (+175点)	68.6% 【ストック型】
市町村図書館等協力貸出冊数（再掲）	19,211冊	20,300冊	14,823冊	73.0% 【フロー型】



構成事業の実績		
事業名	実	績
図書館資料整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 ・ 蔵書のバランスを見ながら、不足している分野の逐次刊行物を新規購読するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、未収集部分の一部について適宜収集を行った。 ・ 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、積極的に購入や発行元へ寄贈の依頼を行った。 	
常設展・企画展開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展「本と人との文化史」の他、年4回の企画展「東日本大震災文庫展IX 災害にそなえる～いまこそあらためてカクニンしよう～」改元記念 古典籍特別展示『万葉集』「漫画家生活四十周年記念 いがらしみきお展」「宮城県図書館改称百周年記念企画展 宮城「県立」図書館から宮城「県」立図書館へ～資料で見るあの頃の図書館～」同時開催「修復完了貴重資料特別展示『所々御境目絵図』」「県立測候所物語～近代宮城の気象観測と災害～」を開催することにより、当館資料を有効活用し、広く県民に公開した。3月末時点で30,479人の来室があった。 	
協力業務運営事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内市町村図書館等への協力貸出を14,823冊、県外図書館等への相互貸借を622冊行い、当館資料の活用を図った。 	
資料展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般図書コーナーにおいて、美術館等と連携したものなど様々なテーマで年28回の展示を行った。 	

自己評価	概ね順調
<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料整備にあたっては、県民の課題解決に必要とされる資料を整備できた。 企画展については、各種広報媒体を活用したことにより県民に広く周知できた。特に今年度は改元記念として特別展示を行ったほか、修復完了貴重資料の展示を行い、宮城県図書館が持つ資料を活用することができた。また、「いがらしみきお展」については期間中の来館者増につなげることができた。 「叡智の杜Web」については、目標公開件数(目標値－初期値)255件のうち前年度は34件、今年度は57件を公開しており、Webを活用した資料の公開が順調に伸びている。 資料展示については、普段は書庫に保存している資料に県民が触れることのできる機会にもなり、資料の利用促進に繋がった。 書庫の狭隘化対策について、当面の配架スペースの確保策として、書架の書棚の増設等を行った。 再掲事業については、5ページ参照 以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。 	

課題
<ul style="list-style-type: none"> 書庫の増設は行っているものの、狭隘化が進む状況であり、効率的な資料の整備と保存場所の確保が必要である。 「叡智の杜Web」について、資料の公開数は順調に伸びているものの、県民への広報活動がさらに必要と思われる。

対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 短期的な対応となる保存スペースの生み出しのほか、書庫の増築も含めた長期的なスパンも考えながら、資料整備の検討を行う。 「叡智の杜Web」の利用については、講習会の実施などあらゆる機会を通じて広報に努める。

協議会委員意見
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

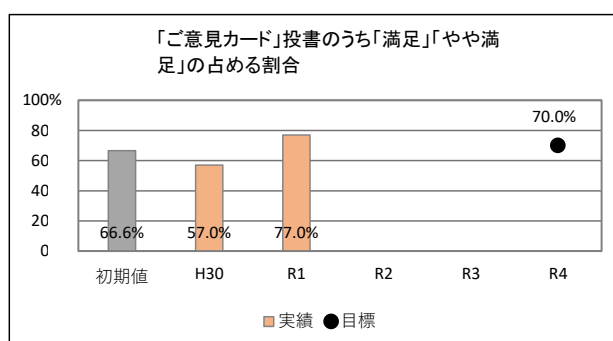
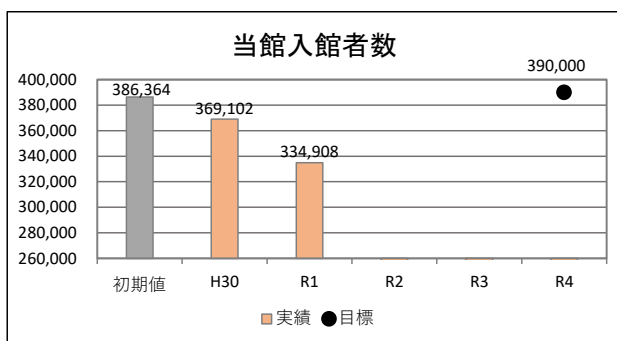
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	8 安全安心な施設の維持に努め、県民が利用しやすい環境整備を推進します。
--------	--------------------------------------

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 当館の施設設備を適切に維持管理し、県民が快適な環境のもとで利用できるようにします。また、施設の老朽化や書庫の狭隘化対策について、10カ年の整備計画を立てるとともに、大規模な増改築を伴う改修等、中長期的な環境整備についても検討していきます。 職員のサービス向上と利用者のマナーアップ推進を図り、キャンペーン活動を実施し、利用しやすい環境づくりを行います。 「ご意見カード」や利用者から寄せられた意見をもとに、適宜、改善や考慮すべき事項の見直しを行います。
------	--

目標指標					
		初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率
当館入館者数		386,364人	390,000人	334,908人	85.9% 【フロー型】
「ご意見カード」投書のうち「満足」「だいたい満足」の占める割合		66.6%	70.0%	77.0%	110.0% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業 (施設管理に関すること)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化に伴う対応については、受変電設備改修工事及び書見の道整備工事のほか、突発的なエントランスホールのガラスのひび割れ進行に伴う飛散防止対策を行った。 書庫の狭隘化対策については、当面の配架スペースの確保策として、書架の書棚の増設や旧エレベーター機械室の書庫としての活用、資料の譲渡等を行った。 中長期的施設整備計画については、外部委託による計画策定に係る現地調査結果の報告を受けて、計画の策定に着手した。
サービス向上マナーアップキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間に合わせて、10月27日から11月30日まで実施した。取り組みとして、図書館利用マナーに関する定時的な館内放送や啓発ポスターの掲示等を行ったほか、カウンターでの破損資料の展示やツイッターでの広報を行った。

自己評価

概ね順調

理由

- 施設の老朽化に伴う対応は、受変電設備の改修や書見の道整備、エントランスホールのガラスの飛散防止対策のほか、2階展示室の映像解説機の更新やレストラン厨房機器類の更新等を実施した。
また、自転車等駐輪スペースの確保策として、西側入口付近に新たに簡易駐輪場を設置し、新たに西側入口から自転車等で来館される際に、簡易駐輪場の場所が分かるよう表示も設けた。

課題

- 開館後20年を経過し、様々な不具合や故障が頻発しており、予算の制約から対応が追いつかない状況である。

対応方針

- 毎年主管課へ提出している「施設整備に係る維持修繕工事計画」の見直しを図るとともに、抜本的な大規模改修ができるよう調整する。

協議会委員意見

- 自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

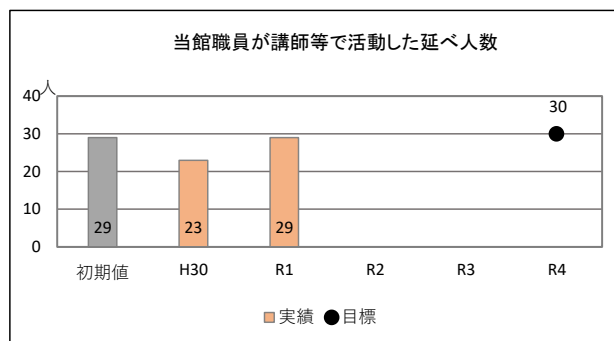
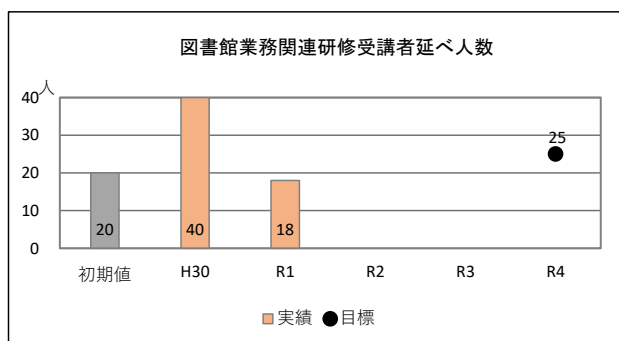
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	9 組織運営の強化に取り組むとともに、創造性豊かで自主的に行動する人材を育成します。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 図書館サービスのさらなる充実を目的として、各種研修会等に積極的に参加し、職員の資質・能力向上に努めます。 専門職員の採用も含めた人材の確保と計画的なジョブ・ローテーションによりさまざまな業務を経験・習得させるとともに、他の組織・機関への派遣研修や人事交流等も検討し、より高度な人材の育成に努めています。
------	--

目標指標					
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率	
図書館業務関連研修受講者延べ人数	20人	25人	18人	72.0%	【フロー型】
当館職員が講師等で活動した延べ人数	29人	30人	29人	96.7%	【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館管理運営事業（再掲） （組織運営及び人材育成に関すること）	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き各種研修会や会議等へ参加するための旅費及び非常勤職員等の人件費等の予算確保に努めた。
公共図書館等職員研修（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等職員・学校司書等を対象とした研修会を年4回（5・7・9・11月）実施し、知識と技能の習得を図った。 受講者数については、延べ321人の参加があった。 参加者アンケートでは平均3.6の高い評価を得た。
出前講座（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> 市町村図書館等業務の専門的知識習得と技術力向上を支援するため、7市町の研修会等へ当館職員を9回派遣した。

自己評価	概ね順調
------	------

理由

- ・今年度は図書館地区別研修会のような県内開催の大規模な研修会が開催されなかったため、達成率は伸び悩んでいるが、職員にとって必要な研修会には参加している。
- ・「広報研修」、「著作権講習」、「古典籍講習会」等、図書館職員として必要な知識を習得するための研修会へ積極的に参加するとともに、館内職員に対する伝達講習を行うことで、スキルアップにつながった。さらに、次代を担う図書館職員の育成を目的として、国立国会図書館と実務研修の相互交流事業に職員を派遣している。
- ・研修で得た知識を活用し、市町村職員等研修会や出前講座において職員自ら講師を務めた。
- ・再掲事業については、7・19ページ参照
- ・以上のことから、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「概ね順調」と判断する。

課題

- ・研修会への積極的な参加を促進するため、職員が受講しやすい職場環境を整えることが重要である。
- ・各種研修会での研修によって職員が得た知識を市町村図書館等職員に十分還元できていない。

対応方針

- ・引き続き職位に応じた研修の情報を提供するとともに、職員が安心して研修を受講できるよう職場内のサポート体制を強化する。
- ・公共図書館研修会や出前講座などで当館職員の知識が還元できるよう更なる活用を促していく必要がある。

協議会委員意見

- ・自己評価の理由が十分であり、「概ね順調」とした自己評価は妥当であると判断される。

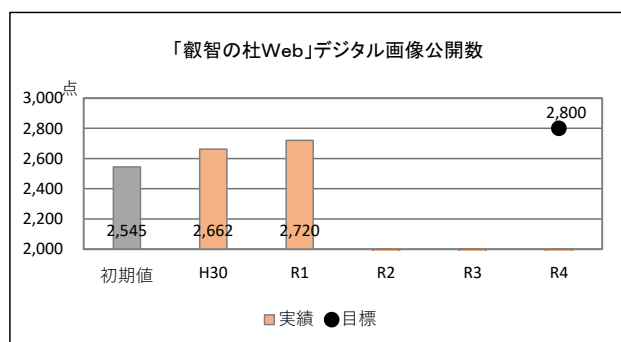
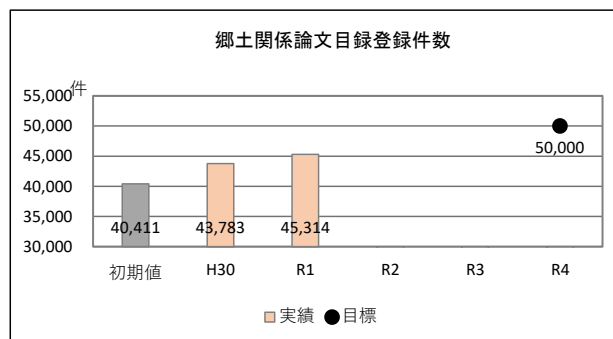
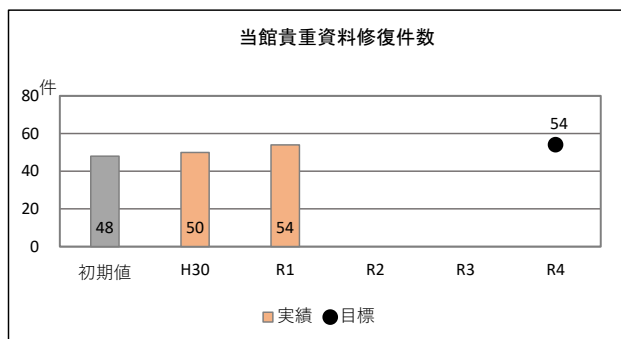
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	10 宮城の郷土資料を後世に伝えるため、収集・保存や修復を行うとともに、利活用の促進を図ります。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県に関する資料は、網羅的な収集に努めます。 必要な資料の修復や複製資料(デジタルデータ)の作製等を行い、適切な長期保存と活用に努めます。 「叡智の杜Web」で文献情報や貴重資料のデータ画像を公開し、利活用を促進します。
------	---

目標指標					
	初期値(平成28年度)	目標値(平成34年度)	実績値(令和元年度)	達成率	
当館貴重資料修復件数	48件 (－)	54件 (+6件)	54件 (+6件)	100.0%	【ストック型】
郷土関係論文目録登録件数	40,411件 (－)	50,000件 (+9,589件)	45,314件 (+4,903件)	51.1%	【ストック型】
「叡智の杜Web」デジタル画像公開数 (初期値との差)(再掲)	2,545点 (－)	2,800点 (+255点)	2,720点 (+175点)	68.6%	【ストック型】



構成事業の実績	
事業名	実績
図書館貴重資料保存修復事業	<ul style="list-style-type: none"> 当初計画どおり、「仙臺府學養賢堂圖」の修復とデジタル撮影を行い、デジタル画像を当館ホームページ「叡智の杜Web」で公開した。
図書館和古書複製作製事業	<ul style="list-style-type: none"> 当初計画どおり、「皇国地誌」の附図の磐陸前国黒川郡55鋪のデジタル撮影を行い、デジタル画像の作成を行い、当館ホームページ「叡智の杜Web」で公開した。

事業名	実績
図書館資料整備事業（再掲）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の幅広いニーズに応じられるよう資料の整備を行った。 ・ 蔵書のバランスを見ながら、不足している分野の逐次刊行物を新規購読するなど計画的に収集を行った。また、宮城県関連の新聞だけでなく、全国紙も含めてマイクロフィルム資料の収集及び作成を行い、未収集部分の一部について遡及収集を行った。 ・ 郷土資料に関しては、資料の種類を問わず、幅広く収集を行うとともに、未所蔵の資料が見つかった場合は、積極的に購入や発行元へ寄贈の依頼を行った。

自己評価	順調
------	----

<p>理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成事業について、当初の計画通り事業が実施できた。 ・ 再掲事業については、17ページ参照 ・ 以上のことから、目標指標の達成度状況は順調に積み上がっており、計画どおり各事業を実施した状況等を勘案し、本施策の方向性の評価は「順調」と判断する。

課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行予算規模における貴重資料の修復件数は計画通りである。未だ多数ある未修復資料の劣化が著しく、資料的価値が損なわれないよう、修復ペースの加速化とその利活用が課題である。
--

対応方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重資料の適切な修復・保存方法について、国の補助事業を活用しながら事業を推進する。 ・ 貴重資料の保存修復の重要性のPRを行うとともに、併せて企画展示等での利活用に努める。

協議会委員意見

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価の理由が十分であり、「順調」とした自己評価は妥当であると判断される。
--

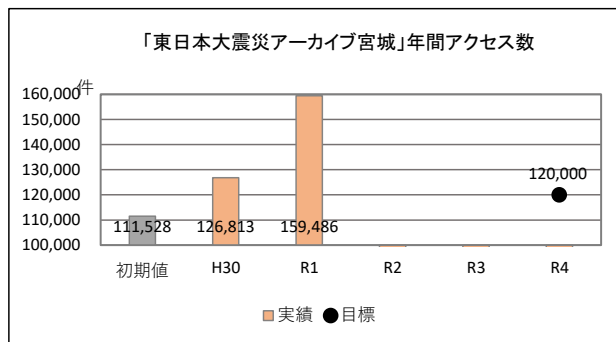
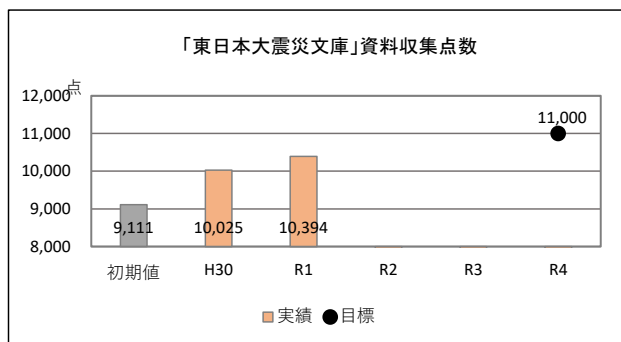
第3期宮城県図書館振興基本計画評価シート

評価対象年度	令和元年度
--------	-------

施策の方向性	1 1 東日本大震災の記録を収集し、永く後世に引き継ぐための取組を行います。
--------	--

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 震災に関する貴重な記録が失われる前に、県全域を対象として震災関係資料を収集することが求められていることから、「東日本大震災文庫」のより一層の充実を図り、購入可能な資料にとどまらず、非売品や希少性の高い資料を含めた幅広く網羅的な資料の収集に努めます。 震災関連資料を防災・減災に生かすために県内全市町村と連携・協力して構築した「東日本大震災アーカイブ宮城」の管理及び運用を行います。また、連携市町村と設置した「東日本大震災アーカイブ宮城管理運営協議会」と協力しながら、利活用の促進及び公開コンテンツの充実を図ります。 被災した市町村図書館等に対し、中長期的な将来を見据えた運営に配慮した支援を行います。また、震災に関する情報交換や経験共有のために研修会等を通じて、震災から得られた各図書館の経験知を他の図書館の業務に役立ててもらうなど、県全域の市町村図書館等の復興に向けた取組に対して支援を行います。
------	---

目標指標				
	初期値（平成28年度）	目標値（平成34年度）	実績値（令和元年度）	達成率
「東日本大震災文庫」資料収集点数 (初期値との差)	9,111点 (－)	11,000点 (+1,889点)	10,394点 (+1,283点)	67.9% 【ストック型】
「東日本大震災アーカイブ宮城」年間アクセス数	111,528件	120,000件	159,486件	132.9% 【フロー型】



構成事業の実績	
事業名	実績
東日本大震災資料の収集	<ul style="list-style-type: none"> 購入資料の収集は東日本大震災から年数が経つにつれ減少傾向だが、寄贈資料の収集や整理が進んだため、収集数としては平成28年度から1,283点増の10,394点(うち図書5,098冊、雑誌1,507冊、視聴覚176点、チラシ3,586点、新聞27紙)と、順調に増加した。 図書館総合展などの震災関連イベントへの出展などによる収集も行うことができた。
東日本大震災関連資料保存継承・公開事業	<ul style="list-style-type: none"> システム運用保守契約を更新し、ハードウェアの故障によるシステム停止を防止するために、クラウドサービスを導入した。 仙台防災未来フォーラム(11/10)及び第21回図書館総合展(11/12～11/14 於:パシフィコ横浜)並びに未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム(11/20 於:岩沼市民会館)でブースを出展し、アーカイブ宮城の利活用方法について広報活動を行うことができた。
被災した市町村図書館等の復興支援(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> 第21回図書館総合展(11/12～11/14 於:パシフィコ横浜)において、被災地図書館の復興状況を紹介した。 学校や行政機関で不要になった地域資料を当館が収集し、当該資料を東日本大震災により被災した県内の市町村図書館等に随時提供する「みやぎデジタルライブラリー」の目録を整理の上MY-NETに掲載し、地域資料の利活用を図った。
ハーバード大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> 米国ハーバード大学ライシャワー日本研究所とのデジタルアーカイブに関する連携協定を締結し、震災の記録、記憶、教訓を広く伝え、後世に受け継ぐためのパートナーシップを構築した。

自己評価	順調
理由 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災文庫の資料収集については、未整理資料の整理が進んだ。 「東日本大震災アーカイブ宮城」については、新たにハーバード大学ライシャワー日本研究所との外部連携を図ることができ、資料のさらなる利活用拡大が見込まれる。また、新規に公開できた資料が少ない状況でも、これまでの広報活動等により年間アクセス数が増加傾向にある。 再掲事業については、6ページ参照 以上のことから、目標指標の達成状況及び実績を勘案し、「順調」と判断する。 	
課題 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災文庫の資料収集及び「東日本大震災アーカイブ宮城」のコンテンツ収集については、時間の経過とともに困難な状況となっている。 	
対応方針 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災文庫及び「東日本大震災アーカイブ宮城」については、各種団体と連携を強め収集に取り組むほか、震災伝承や被災者支援の活動を終了する団体から資料を譲り受けたり、外部機関と連携して広報・収集するなど、積極的に働きかけを行う。 	
協議会委員意見 <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の理由が十分であり、「順調」として自己評価は妥当であると判断される。 震災に対する資料収集及び公開事業は活発で意義ある取り組みとなっている。 	

4 令和元（平成31）年度の点検及び評価の総括

第3期宮城県図書館振興基本計画に基づく令和元(平成31)年度の取組を点検し、当該計画で設定した11の施策の方向性毎にその進捗状況の評価しました。数値的判断として設定した各目標指数に対する達成率と、施策毎の構成事業の取組実績を元に自己評価した結果、「順調」が2件、「概ね順調」が8件、「やや遅れている」が1件、「遅れている」と判断したものは0件でした。

この評価に係る外部評価として、宮城県図書館協議会に諮問することとしており、自己評価の内容やその判断に至った理由、課題などを報告し、審議（第3回協議会についてはコロナウイルス感染症の影響により書面開催）の結果、自己評価については妥当との判断をいただきました。

振興計画策定から2年が経過し、今後の推進に当たっては、自己評価と宮城県図書館協議会の意見などを踏まえ、評価する中で整理された課題については、引き続き改善に努めるとともに、目標指標等については随時見直しを実施しながら最適なものになるよう努め、目的を達成した事業についても更に一歩進んだ取組となるようたゆまぬ見直しを行い、これからも市町村図書館等との連携・協力関係の深化を図り、当館を中核とした図書館ネットワーク体制の充実と、全県的な図書館サービスのさらなる質的向上に努めます。